

(3) 実施体制

各協議会の実施体制について、取組種別、路線分類を踏まえ、地方航空路線の利用促進の取組みのあり方について検討した。

	プロジェクトの推進役の存在	関係者との情報共有 戦略・計画の合意形成	情報収集・データ分析に基づく戦略立案	多様な関係者との役割分担
オホーツク紋別空港利用促進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・紋別市観光交流推進室が中心となり、全体調整・事業実施時の総括を担当。 ・本事業の企画応募段階から、プロジェクト推進の中心的な役割を担い、関係者との調整役として有効に機能した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施方針の決定は、紋別市長を委員長としたオホーツク紋別活性化プロジェクト事業効果検討委員会を設置、開催し、PDCA サイクルを確立した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏での PR 事業を企画立案するためにシンクタンクを起用し、専門的な知見から取組の方向性を検討。 ・海外インバウンド動向を踏まえた事業期間中の戦略の修正を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紋別市観光交流推進室が中心となり、紋別振興公社や観光協会と旅行商品開発や販売等について役割分担を行っている。
釧路空港利用整備促進期成会	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路市産業振興部 観光振興室が実施責任者となり、取組の企画・調整を担当。 ・企画応募段階の事務局は、水産港湾空港部港湾空港振興課であったが、利用促進事業の所掌の移管により観光部局が担当することとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・期成会が実施主体であり、事務局が中心となり、各事業を担当する関係事業者との連携により推進した。 ・全体方針を確認する合意形成等の場は設置されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行商品造成に向けたモニターツアーを企画し、ターゲット層のニーズを把握、分析している。 ・全体方針に係る情報収集・データ分析による戦略の見直しは実施されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丘珠空港と双方向の利用促進に取り組み、北海道や札幌市との連携により、地域 PR 事業等に取り組んでいる。 ・双方向の取り組みであり、札幌側との役割分担や連絡調整について、更にコミュニケーションが必要と考えられる。
山形空港利用拡大推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県交通政策課が全体の進行管理を担当。 ・本事業の企画応募段階から、プロジェクト推進の中心的な役割を担い、関係者との調整役として有効に機能した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県、伊勢市と双方向交流推進 PT・WG を設置・開催し、双方でのコミュニケーションを図り、各事業を推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度の取組において、需要調査を実施し、路線特性、利用者ニーズ等の分析結果を踏まえ、取組の方向性を修正した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県商工労働観光部の各課により各プロジェクトの推進担当が明確化されている。 ・中京圏側との双方向による取組について県名古屋事務所が連絡調整役となっている。
のと里山空港利用促進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・石川県企画進行部空港企画課が全体の進行管理を担当。 ・本事業の企画応募段階から、プロジェクト推進の中心的な役割を担い、関係者との調整役として有効に機能した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開港以来取り組んでいる搭乗率保証制度に係る連携体制を活かし、関係者との円滑な情報共有、連絡調整を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも L/F を KPI とした利用促進を実施してきており、企画段階においても、統計データに基づく課題分析を実施し、取組み方針を検討、提案している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開港以来取り組んでいる搭乗率保証制度に係る連携体制を活かし、取組事業毎に明確な役割分担連携体制が構築されている。

	プロジェクトの推進役の存在	関係者との情報共有 戦略・計画の合意形成	情報収集・データ分析に基づく戦 略立案	多様な関係者との役割分担
富士山静岡空港利 用促進協議会	<ul style="list-style-type: none"> 空港利用促進課が全体の進捗管理、連絡調整を担当。 空港振興局・観光交流局のそれぞれが、各事業の企画率間、関係者調整を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進協議会が実施主体であり、事務局が中心となり各事業を担当する関係事業者との連携により推進した。 全体方針を確認する合意形成等の場は設置されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス利用に関して、アンケート調査、企業訪問を通じて利用者ニーズを把握、分析している。 全体方針に係る情報収集・データ分析による戦略の見直しは実施されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島空港との双方向による取組について、空港利用促進課が中心となり、観光振興課や観光協会との役割分担を行い、鹿児島県交通政策課、観光化、商工会議所等との連携調整を図っている。
南紀白浜空港利用 促進実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> 南紀白浜空港利用促進実行委員会が中心となり、全体調整・事業実施時の総括を担当。 企画応募段階の事務局は、港湾空港局港湾空港振興課であったが、2年目からは地域振興局総合交通政策課と連携し有効に機能した。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進実行委員会が実施主体となり各事業を担当する関係事業者との連携により推進した。 全体方針を確認する合意形成等の場は設置されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 首都圏 PR において効果的な PR 媒体の分析までには至っていない。欧米人のモニターツアーを企画し、ターゲット層のニーズを把握、分析している。 全体方針に係る情報収集・データ分析による戦略の見直しは実施されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山県港湾空港局港湾空港振興課が中心となり、旅行商品造成等について県東京事務所、和歌山県観光連盟との連携調整を図っている。
但馬路線利用拡大 検討会	<ul style="list-style-type: none"> 常設の但馬空港推進協議会が実施主体であり、取組の企画・調整を担当。 関係者との調整役として機能が課題であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 推進協議会が実施主体であり、事務局が中心となり各事業を担当する関係事業者との連携により推進した。 全体方針を確認する合意形成等の場は設置されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体方針に係る情報収集・データ分析による戦略の見直しは実施されていない。 	<p>中核の事業であるパフォーマンスアーツツーリズム(PAT)の取組については、豊岡市等が中心となり推進協議会との連携により取り組んでいる。</p>
天草空港利用促進 協議会	<ul style="list-style-type: none"> 天草空港利用促進協議会が中心となり、全体調整・事業実施時の総括を担当。 本事業の企画応募段階から、プロジェクト推進の中心的な役割を担い、関係者との調整役として有効に機能した。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進協議会が実施主体であり、各事業を担当する関係事業者との連携により推進した。 全体方針を確認する合意形成等の場は設置されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験型旅行商品でのモニターツアー、情報発信方法を企画し、参加者ニーズ、情報発信状況を把握、分析している。 各取組に係る情報収集・データ分析を行い、多岐にわたる取組の取捨選択により戦略の見直しは実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 天草市地域政策課および天草エアラインが分担し、旅行商品造成等について、熊本県交通政策課、天草空港管理事務所、熊本県福岡事務所との連携調整を図っている。